



二日間の東京研修は自分にとって進路について深く考えるととても良い機会になりました。自分は将来についてはあまり考えていなくて、いつかきっと自分のやりたいことが見つかるだろうとおもっていました。しかし高校にはいって、新しい仲間がたくさんあい彼らの将来への明確な意思におどろいてから、自分はもしかしたら遅れているのではないかと感じるようになりました。このような不安をどうにかしようと思い、東京研修に参加しました。研修は全部で4つもの企画があり、充実していました。

まず最初の企画であるディレクトフォースでは、普段会えないたくさんの偉い方々の話を伺いました。彼らの高校の時の過ごし方や考え方を聞いて、まだ将来何になろうかははっきりしていなくてもいいんだな、と感じました。とりあえず大学ではこんなことが学びたいからあの大学に行こうというように少しあやふやでも、自分の本当にやりたいことに出会えるのかもしれないということに、少し安心感を覚えました。

留学を進める話も多くありました。新しい考え方を身に付けることができるという点で良いそうです。僕は実際小学五年のときから一年間アメリカに滞在していました。英語はもちろん得意となりましたが、それいがいにも文化交流をとおして、自分が今まで仙台だけというどれだけ狭い世界しか知っていなかったのだろうと強く感じることで視野を広げられました。このような経験から、留学の大事さは知っているつもりでしたが、大学生のときに行う海外での滞在はもっと刺激的だといいます。大学の生徒と専門的なものをまなび関わることで、外人と自分との感覚の違いをよりいっそう強く感じるができるそうです。

ほかに印象的だったのは、ロシアビジネスをなさっている方がおっしゃっていた、「修士をとらないと世界では通用しない」という言葉です。院生として学ぶ大切さを教えていた

できました。大学院に入ると学生生活もうんと長くなりますが、自分もがんばっていってみようかと感じました。また、「できること、やりたいこと、やる価値のあるものを発見するのが大事」ということを平和財団のかたからお聞きしました。やりたいだけではなくそれが自分の能力にあっているか、価値があるかも考慮して職業選択をしていかなければいけないそうです。

大学訪問では、順天堂大学医学部天野教授を訪ねました。教授が僕たちが待っている部屋に入ってきた瞬間から、この方は凄い人だと言う印象を受けました。教授はどんな質問にもすぐ答えてくださいました。「医者になるには体力が必要。手術には欠かせない。心身は鍛えておくべきだ。また、早い人でも三年、遅い人では五年かかってやっと英語がてきえるようになるから、英会話は高校からやっておくとおよい。これからは中国語も大切となる。」「部活でもなんでも、大事なのは同じミスを繰り返さないこと。分析を行い続けるひつようがある。もうひとつのポイントは自分の得意な部分を見つけてそれを軸とすること。強化していけば自分の強みとなる。」

教授の言葉はどれもとても納得できるものでした。中学校の部活の先生がおっしゃっていたことと重なるものもありました。あらためてその重要さに気づきました。天野教授自身は高校で麻雀にはまってしまいあまりうまくいかなかったそうで、それでも順天堂大学で院長をなさっているとは、これはまさに心身が鍛えられているからだとおもいます。

病院は広く、院長室はとても立派できれいでした。手術室はなんとなく緊張感があり、いままで自分が持っていた病院のイメージが少し変わったきがしました。

夜の OB 東大生との談話も良いものとなりました。自分と同じ環境で高校生活を過ごした人たちと進路について語るのはなんだか新鮮に感じました。印象的だったのは、浪人も楽しいと言う話です。悪いイメージしかなかった浪人ですが、学校に属さないで生活するという新しい経験ができるので、特別だということです。できれば浪人は避けたいですが、あまり怖がりすぎなくてもいいんだなあと思いました。独り暮らしについての話もありました。自分だけで暮らすのは楽しいのだが、生活のコントロールができないと学校にもついていけず大変なことになるらしいです。

一日目は大学について話を聞くだけでしたが、二日目は実際に大学を訪問し、新たな発見ができました。

よかったのは、東大を視野にいれられたということです。今まで東京大学は自分からしたら遠い存在で、行けたらいいけど無理だろうと感じていました。しかし、もちろん学力的にはまだまだですが、東大を受けてみたいと強く感じました。理由としては校舎の広く充実しているということがあげられます。施設はきれいで、話によると研究用設備はかなり揃えがいいそうです。図書室は大きく外国の古い書までおいてあって、自習スペースも席が多くとても充実していました。

学生による自分の歩んだ進路についてのプレゼンテーションもありました。希望職業が

進学以前から明確だったひととそうでなかったひとの話があり、僕は決まっていなかった方のほうに印象を受けました。あやふやでもいいが自分で積極的に調べていくのが大切だということでした。この考えにはとても納得しました。ただぼんやりと考えるのではなく、結局はつきりとしなくても、確実にさせるため自分で努力するのが大切だというのは、今の自分にとってもあっているアドバイスだと思いました。

最後の学生との対話では、主に今取り組むべき勉強の内容について聞きました。高一では数学、国語、英語にちからをいれるべきだそうです。特に数学は大事で今から重点的に勉強していく必要があるとおっしゃっていました。国語にかんしては模試の復習をしてその文章の展開を理解しておくことが大切ともききました。ほかには、アルバイトの話もありました。バイト先で仲間がふえてとても楽しいから、ぜひやるべきだということです。

最初にものべたとおり、今まで自分は進路についてあまり考えてきませんでした。考えようとしても、なんの職業にも興味を示せず、困っていました。しかし、自分が大学で学びたいことならもう少し簡単に見つけられそうです。高校生活はそれを探しだすことに使っても良いのではないか、ということはこの東京研修で感じることができました。そうすれば、大学にはいってから自分がまなんだことをいかせる仕事に興味を持てるはずですよ。

今回は本当に良い経験となりました。たくさんの方から多くの貴重なお話やアドバイスをいただくことができました。ここでまなんだことを忘れずに、これからの約2.5年間の学校生活をおくっていきたいです。